「返礼品より気持ち重要」

税の作文表彰 久松さん（清真学園中）朗読

潮来

潮来市あやめの潮来ホテルで14日、納税表彰式（潮来税務署・潮来税務署管内税務関係団体連絡協議会共催）が開かれ、関係者ら約50人が出席した。中学生の「税についての作文」や「税に関する高校生の作文」などの表彰が行われ、代表生徒が作文を朗読したほか、申告納税制度の普及発展や租税教育の推進に努めた団体・個人に表彰状や感謝状を贈った。

表彰式は、「税を考える週間」（11～17日）の関連行事。本年は「これからの社会に向かって」をテーマに、社会の変化の中で税の果たす役割や意義を考えるとしている。

作文表彰では、「税についての作文」で県納税貯蓄組合連合会会長賞を受賞した久松凛音さん（清真学園中3年）が「ふるさと納税の本来の形」と題した自身の作文を朗読した。

作文を朗読する久松凛音さん＝潮来市あやめ

作文の中で久松さんは、ふるさと納税を調べたところ、元々は過疎化や地方間の格差などで税収減に悩んでいる自治体のための制度だったと指摘。現状、自治体による返礼品競争が起こっているとした上で、災害支援のふるさと納税では返礼品がないことがほとんどだと説明した。

久松さんは「返礼品目的ではなく、地域の復興や活動の応援が（ふるさと納税の）目的なのはすてき。どこに住んでいても、寄付金として気持ちを届けられることが一番重要」と述べた。

発表後、久松さんは自宅にふるさと納税の返礼品が届いたことが作文を書くきっかけだったとし、「これまで税について考えることは少なかったが、良いきっかけになった」と話した。

潮来税務署の渕野剛志署長は「将来を担う中高生の皆さんに税に関心を持ってもらい、正しい理解を深めてほしい」と語った。

（石川孝明）

出所：2023.11.17（金）茨城新聞　地域　鹿行版